

原因不明の口腔顔面痛



【講師】

いかわ まさこ

井川 雅子 先生

静岡市立清水病院口腔外科
口腔顔面痛外来



【講師】

いまい のぼる

今井 昇 先生

静岡赤十字病院神経内科部長

【略歴】

1984年 東京歯科大学卒業
1984～1990年 慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学教室助手
1990年～現在 静岡市立清水病院口腔外科非常勤歯科医師
2011年～現在 日本歯科大学臨床教授
2012年～現在 神奈川歯科大学
国際医療福祉大学三田病院非常勤講師
2014年～現在 井川歯科医院院長
学会専門医：米国口腔顔面痛学会認定医・fellow、日本口腔顔面痛学会指導医、日本顎関節学会専門医、日本頭痛学会専門医

【略歴】

1988年 産業医科大学卒業、同年北里大学内科（神経）入局
1994年 北里大学内科助手
1995年 清水市立病院神経内科医長
2001年 静岡赤十字病院神経内科副部長
2007年 静岡赤十字病院検査部長
2008年 静岡赤十字病院神経内科部長
資格：医学博士、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本神経学会専門医・指導医、日本頭痛学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医、International Headache Society 認定 Headache Master、日本救急医学会認定 ICLS コースインストラクター

【講師陣からのメッセージ】

歯痛や顎関節症のように見えるが、実際は医科領域の疾患であるというものは少なくありません。本講演では、神経内科医の今井と歯科医（口腔顔面痛専門医）の井川が、以下のそれぞれの疾患がどのような主訴で歯科を受診するのか、また、医科での診断と治療法について、具体的な症例を供覧しながら解説いたします。医師・歯科医師双方の臨床の即戦力となる知識です。

- **片頭痛**：片頭痛では、顔面痛が主訴となるものがあり「下顔面片頭痛」と呼ばれています。典型的な片頭痛をベースに解説します。
- **TACs(タックス：三叉神経・自律神経性頭痛)**：TACsは「頭痛」ではありますが、患者には「顔面痛・歯痛」と感じられます。TACsには、群発頭痛、発作性片側頭痛、SUNHA(サンハ)、持続性片側頭痛の計4つの類似疾患があり、それぞれ治療法が異なります。診断できる医師が少なく、患者が歯科を受診することは稀ではありません。
- **巨細胞性動脈炎**：動脈の炎症と狭窄で、開口障害や咀嚼時痛が主訴となることがあります。診断が遅れると失明に至ります。
- **ジストニア・ジスキネジア**：顎偏位が生じ、歯科医の目には顎関節症のように見えます。
- **舌痛症・非定型顔面痛(歯痛)**：中枢性の疼痛で、抗うつ薬が奏効します。

主な共著書

- 1)「OFOPを知る」クインテッセンス出版、東京、2005 2)「口腔顔面痛を治す」講談社健康ライブラリー 講談社 東京、2009

【日時】 3月17日(日) 10:00～13:00

【会場】 沖縄県市町村自治会館4階会議室 [那覇市旭町116-37/TEL 098-862-8181]

【返信先 FAX: 098-832-4482】

定員に達し次第、申込受付終了となりますので
お早めにお申し込みください。

TEL _____

医院名 _____

会員氏名 _____

参加数 _____

名 _____

沖縄県保険医協会事務局

〒902-0078 那覇市字識名1195-1 大城産業ビル106号 TEL:098-832-7813/FAX:098-832-4482